

デジタルデータと融合した新しいカード遊びが誕生！ 新型カードマシン「データカードダス」導入決定

～ 2005年3月上旬に専用カード第1弾「ドラゴンボールZ」を発売～

株式会社バンダイ
株式会社バンプレスト

(株)バンダイ(本社：東京都台東区、社長：高須武男)と(株)バンプレスト(本社：東京都台東区、社長：仲田隆司)は、両社の共同事業として、デジタルデータとカードゲームを融合させた新型カードエンターテインメントマシン「データカードダス」を2005年3月上旬より順次導入します。設置場所は、全国の玩具店、百貨店・量販店の玩具売場、およびアミューズメント施設です。

「データカードダス」は、従来バンダイが発売してきた「カードダス」(P.3参照)と同様にカードの購入ができる自販機であると同時に、購入したカードのバーコードに登録されたデジタルデータを読み込みゲームも楽しめる新しいカードマシンです。

データカードダス第一弾のキャラクターは、小学生中～高学年を中心に幅広い層に絶大な人気を誇り、これまでにバンダイのカードダスやゲームソフトなどで数々のヒット商品を生んできた「ドラゴンボールZ」(1回1枚100円・税込)です。今後もバンダイグループの持つキャラクターマーチャンダイジング力を活かした商品化をしていきます。

バンダイとバンプレストは、両社のノウハウを活かし、カードとゲームコンテンツの開発・生産をバンダイが、筐体の開発・生産をバンプレストが行います。また、両社が持つ販売ルートを活用することにより、共同事業による相乗効果を狙います。

導入時の筐体台数は1000台を予定しており、1年間でカード販売金額40億円を目標としています。2007年3月までに筐体設置台数4000台、カード販売金額100億円を目指しており、バンダイグループのカード事業とアミューズメント事業における新しい柱として事業の拡大を狙います。



「データカードダス」とは？

「データカードダス」マシンは、デジタルデータ付カードの購入ができる自販機であるとともに、購入したカードのデータを読み込んでデジタルデータと融合した遊びを提供することができるカードマシンです。データカードダス専用のカードにはバーコードが付いており、このバーコードのデータを筐体を読み取り、その情報をもとに、筐体に搭載されたゲームソフトで遊ぶことができます。

筐体は、バンダイグループの持つキャラクターマーチャンダイジング力を余すことなく活かせるように、ソフトを入れ替えることで異なるゲームを楽しむことが出来る構造となっており、市場の変化に合わせて柔軟にソフトを変更し、常に新しい遊びを提案し続けることが可能となります。



<カードの裏面（バーコード付）>



<バーコードをスキャンしデータを読み取る>

遊びの内容について



データカードダス第一弾となる『ドラゴンボールZ』（1回1枚100円・税込）は、「ひとりであそぶ」「ふたりであそぶ」「あそびずにカードを買う」の3モードから1つを選ぶことができます。

「ひとりであそぶ」モードと「ふたりであそぶ」モードは、プレイヤーがドラゴンボールZに登場するキャラクターを選択し、コンピューターもしくは対戦相手と画面上で格闘するアクションゲームです。データカードダスの筐体について3つのボタンを操作して、ラッシュ（連打撃）、カウンター（反撃技）、スマッシュ（強打撃）を用いて相手キャラクターを攻撃します。カードは1プレイ終了後に必ず手に入れることができます。また、カードがなくても遊ぶことができますが、購入したカードを用いてプレイをするとキャラクターの能力や攻撃のレベルを変化させることができ、よりお楽しみいただけます。



<プレイ画面>



<プレイ終了後にカードが1枚払い出される>

バンダイとバンプレスト 両社の強みを活かし相乗効果を

共同事業にあたり、バンダイがカードとゲームコンテンツの開発・生産を、バンプレストが筐体の開発・生産を行います。筐体の設置およびカードの販売は、両社が持つ販売ルートを最大限に活用し、全国の玩具店、百貨店・量販店の玩具売場をバンダイが、アミューズメント施設をバンプレストが担当します。バンダイがこれまで培ってきたカード自販機事業とビデオゲーム事業のノウハウ、バンプレストが培ってきたアミューズメント事業のノウハウ、そして、バンダイグループが持つキャラクターマーチャンダイジング力を発揮することにより、バンダイグループのさらなる事業の拡大を狙います。

バンダイのカード事業

バンダイのカード事業は自販機専用カード「カードダス」(1988年より発売)に端を発します。発売以来「カードダス」は、SDガンダム、ドラゴンボール、セーラームーン、ポケットモンスター、デジタルモンスター、金色のガッシュベルなどのキャラクターを商品化し、数々の大ヒットを生みました。2004年3月末までに累計販売数75億枚、カードダスマシン設置台数10万台を記録し、子供たちの中で「カードと言えばカードダス」と言われる程、コレクションホビーとしての地位を確立しています。なかでもドラゴンボールはシリーズ累計販売数20億枚を記録し、現在のカード市場の礎を構築しました。バンダイでは、「カードダス」に加え、「ジャンボカードダス」「カードダスマスターズ」「カードダスEX」など、カードカテゴリーのラインアップの充実を図っており、今回導入となる「データカードダス」により、さらなるカード事業の拡大を目指します。

バンプレストのアミューズメントマシン事業

バンプレストがバンダイグループのアミューズメント事業会社として、キャラクターを使ったキッズ向けのマシンとマシンからキャラクター景品を払い出すビジネスを開始したのは1989年。以来、キッズに人気のある「アンパンマン」「セーラームーン」「ポケットモンスター」「ワンピース」などのキャラクターを商品化し、ファミリー向けのアミューズメント施設を中心に商品を提供してきました。「ドラゴンボール」については、今日まで小学生低学年をターゲットとするキッズ向けマシンが主流でしたが、この共同事業をきっかけに小学生中～高学年を新たなターゲット層として訴求していきます。

バンプレストでは、これまでのキッズ向けのマシン事業に加えて、今後はターゲット層を拡大し、小学生中～高学年および中高生～大人向けのマシンの企画開発に力を入れ、さらなるアミューズメントマシン事業の拡大を目指します。

＜ 商 品 概 要 ＞

データカードダス「ドラゴンボールZ」

- メーカー希望小売価格 : 1回1枚100円(税5%含む)
- 販売ルート : 全国のデータカードダス用自動販売機、
- 発売日 : 2005年3月上旬
- 筐体サイズ : 1660mm(H) × 480mm(W) × 660mm(D)
- カードサイズ : 86mm(H) × 59mm(W)
- カード種類 : 全52種
[ノーマル27種、レアカード18種(箔押し)、
激レアカード6種(ホロ)、爆レアカード
1種(ホロ&箔押し)]
- ゲームプレイ時間 : 約3分
- ゲーム形式 : 1Pモード 勝ち抜き3回戦
2Pモード 3本勝負(2本先取)
(プレイをせずにカードの購入のみも可能)

バンダイ ホームページURL : <http://www.bandai.co.jp/>
バンプレスト ホームページURL : <http://www.banpresto.co.jp/>
カードダスドットコム ホームページURL : <http://www.carddas.com/>